

有機性排水処理技術ワーキンググループ技術分野
の進捗状況及び来年度の方針について

1. 平成20年度の事業報告

(1) ワーキンググループ（WG）開催経緯等

20年 6月2日	第1回WG開催 (有機性排水処理技術実証試験要領(第1版)の検討 及び実証機関の公募・募集に関する検討等)
12月3日	拡大WG開催 (環境技術実証事業の概要について、事業や対象技 術への要望・意見、実証によるメリット等の向上に ついての要望・意見)
21年 3月 10日	第2回WG開催 (実証試験結果報告書の検討、実証試験要領の見直 し)

(WG検討員名簿は別紙参照)

(2) 実証試験状況等

実証運営機関：財団法人日本環境衛生センター

○ 実証機関の公募を行い、下記2機関を今年度の実証機関として選定した。

実証機関：大阪府

中核となる機関名：大阪府環境農林水産総合研究所
実証対象技術：なし

実証機関：社団法人埼玉県環境検査研究協会

実証対象技術：メカセラ装置／株式会社セイスイ

2. 来年度の方針

〔課題〕

○実証件数が今年度は1件となっており、継続にあたっては、事業者メリットの拡大が不可欠。

〔改善策〕

以下の4つの改善策を順次実施していく予定。

①ユーザーへの発信力の強化（特に外食業界）

②実証分野の拡大の周知（汚泥処理技術を対象としていることの周知）

③他の事業と有機的な連携

④実証結果の表示の工夫（優れた技術を優れた技術だと分かるように表示）

※①、②については来年度から実施。③、④については来年度可能かどうか見極めながら実施

<今後の予定>

○実証運営機関の選定（4月上旬）

○実証機関の公募（5月）

平成20年度環境技術実証事業検討会

有機性排水処理技術分野ワーキンググループ 検討員名簿

(敬称略)

- ◎藤田 正憲 高知工業高等専門学校 校長
- 岡田 光正 広島大学大学院工学研究科 教授
- 徐 開欽 国立環境研究所 アジア自然共生研究グループ環境技術
評価システム研究室、循環型社会廃棄物研究センター バイ
オエコ技術研究室 (兼) 主任研究員
- 中井 尚 (社)日本フードサービス協会 理事、事務局長
- 名取 眞 (社)日本産業機械工業会 国際環境技術協力センター 顧問

◎ : 座長